

検査項目		検査の説明
問診		いまの症状、過去の病歴、家族のかたの病歴をお教えてください。治療法の選択に重要です。
身体測定		身長・体重・体脂肪率を計り、体型を測定します。BMI(肥満度指数) = 体重kg ÷ (身長(m)×身長(m)) 正常値(19.8~24.2) 標準体重 = 身長(m)×身長(m)×22 体脂肪率:インピーダンス法、水中測定、超音波などの方法があります。 男性:25%以下 女性:30%以下 (クリニックではインピーダンス法)
視力		急に視力が落ちたとき、中心部が見えにくいなど症状のある方は眼科受診をお勧めします。
聴力		難聴の有無を調べます。加齢と共に高音から聞こえにくくなりますが、のある時は耳鼻科受診を。
血圧		血圧は個人差があり健康状態、環境などでも変動します。クリニックでの血圧、家庭での血圧の測定が大事です。高血圧の方は心臓病、腎臓病、動脈硬化、脳卒中などを合併しやすいので、規則正しい生活、塩分の取りすぎ、喫煙、角のアルコール、肥満に注意しましょう。
超音波検査		超音波による画像診断です。心臓・肝臓・胆嚢・腎臓などの形態の異常、心拍種量など機能測定 カラードップラーを用いて閉鎖不全逆流、狭窄の程度を調べます。頸動脈エコーでは、総頸動脈内頸動脈の血管壁の肥厚、血栓を観察します。甲状腺エコーでは充実性腫瘍、嚢胞など甲状腺の器質的変化を見ることができます。
眼底検査		眼底にある動脈・静脈の状態を調べ、糖尿病・高血圧・動脈硬化の変化をみます。
肺機能検査		呼吸機能の評価のため、肺活量や1秒率、1秒量で肺の拘束障害、換気障害を調べます。(肺気腫、喘息など慢性閉塞性肺疾患)スパイロメーターで肺活量や呼出量(1秒間に吐き出される呼気量)を測定し呼吸の機能を見る検査です。(肺気腫・肺線維症・気管支喘息など)
経皮酸素分圧測定		皮膚の上から動脈血中の酸素分圧を調べます。呼吸不全、心不全の情報が得られます。
便潜血反応		消化管で出血すると便の中に血液が混入されて排泄されます。人の血液にしか反応しませんので、肉魚の摂取には影響されません。 (陽性でやすいものは、消化管悪性腫瘍、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、胃潰瘍、痔など)
尿検査		尿糖 :糖尿病などで、血糖が170を超えると尿中に糖がもれてきます。尿蛋白 :高血圧・糖尿病・腎臓に障害があると蛋白尿がみられるようになります。 尿潜血 :腎臓、尿管、膀胱、尿道の炎症や尿路結石・腫瘍などでできます。 ケトン体:体の中で糖の利用が阻害されると、脂肪の代謝が促進されケトンが増加し、糖尿病・激しい下痢・嘔吐・高熱などで出てきます。
心電図、トレッドミル負荷心電図		不整脈・虚血性変化・心臓肥大・心筋症の異常などがわかり、心臓の様々な変化を知る基本的な検査です。必要があるときは、トレッドミルなどの負荷心電図を行います。
24時間心電図		不整脈、狭心症によると思われる症状がある時に、睡眠中、階段昇降、ランニング、喫煙、アルコールの心臓に負荷がかかったときにでる変化を、入院せずに無拘束で調べることができます。
胸部X-P		肺の結核・腫瘍の有無、気管支拡張や、縦隔のリンパ節、心陰影、心臓肥大など形を調べます。
腹部X-P		腸管ガスの状態や肝臓・腎臓などのおおよその大きさと形、結石の有無、腹水の有無、腰椎・骨盤などの骨の状態がわかります。
胃透視検査		バリウムを飲んで食道、胃、十二指腸までの上部消化管を調べます。検査結果で、疑問陰影、異常があればさらに内視鏡検査(胃カメラ)を行う場合もあります。検査終了時は、水分摂取を充分にとつて、必要があれば下剤を使用してください。
内視鏡検査		上部消化管検査:食道、胃、十二指腸までを電子内視鏡で見る検査です。細径の内視鏡、経鼻内視鏡なども準備しています。 大腸内視鏡検査:大腸がん、大腸ポリープなどの診断には欠かせない検査です。
喀痰細胞診		痰を数日間蓄痰し、顕微鏡で癌などの細胞が出ているか調べます。
血	赤血球 血色素量 ヘマトクリット	貧血や多血症などのチェックをします。投薬の影響などにも必要な検査です。
	白血球 白血球像	ウイルス・細菌感染、慢性炎症、心筋梗塞などを調べます。 好中球・リンパ球・好酸球などの割合をみます。アレルギーでは 好酸球 が増加します。
液	血小板	出血したときに血を止める働きがあります。多いときは感染症など少ないときは肝障害・脾臓機能亢進・出血傾向を考えます。
	血沈	病気を発見する手掛かりとなります。慢性炎症や感染症があると亢進します。
尿酸		高値では痛風や腎臓結石の原因になります。プリン体を多く含む食品やアルコールなど飲み過ぎ食べ過ぎに注意。
脂	総コレステロール	血液中のコレステロールを調べます。高コレステロールが続くと動脈硬化や心臓病の原因にもなります。食事との関連が強くカロリーの取りすぎに注意しましょう。
	中性脂肪	増えすぎると動脈硬化や肥満の原因になります。カロリーの取りすぎに注意しましょう。

肪	HDL_C	善玉コレステロールと言われ、この値が高いと動脈硬化を予防します。逆に低い場合は動脈硬化を促進させます。
	LDL_C	悪玉コレステロールと言われ、血管内皮へ染み込むと動脈硬化を促進させ、心臓病などがある人は100mg/dl以下に保つ必要があります。
肝	GOT	肝臓や心臓に多く含まれる酵素で肝臓の病気や筋肉の病気、心筋梗塞と血液中に出てきます。
	GPT	肝臓に多く含まれる酵素で、異常値の場合は肝障害を疑います。急性肝炎・慢性肝炎・アルコール肝炎・脂肪肝・肝癌・劇症肝炎
臓	γ-GTP	肝臓・胆道系の病気を調べるもので、肝臓の繊維化やアルコール肝炎などで上昇します。
	ZTT	血清中の蛋白質の性質を調べる検査で、肝臓の障害の程度がわかります。
	ALP	肝臓の障害、骨の変化を調べます。
	総ビリルビン	肝臓や胆管閉塞などの障害を調べます。肝機能障害・胆管胆石・黄疸があると高値となります。
	LDH	肝臓病・心臓病・血液の病気が高値となります。栄養状態・肝臓・腎臓の機能を調べます。
糖	尿糖	糖尿病の発見の手掛かりとなる検査です。陽性なら精密検査が必要です。
尿	血糖	糖尿病の発見の手掛かりとなる検査です。血糖値は食事の影響を受けるので、空腹時だけでなく、食後の血糖測定も重要です。
	尿中微量ALB	尿中の微量アルブミン濃度をみることで、糖尿病性腎症の予測だけでなく、高血圧の程度判定、心筋梗塞の前触れなどを予測します。
	Hb A1c	過去2～3カ月の平均の血糖レベルをみます。院内で検査しますので、10分ぐらいで結果をお知らせします。
病	1, 5AG	過去1～2週間前の平均血糖レベルをみます。
アミラーゼ		膵臓から分泌される酵素で膵臓に障害があると血液中や尿中に出てきます。
甲 状 腺	TSH	甲状腺刺激ホルモンで甲状腺機能亢進症では低く、甲状腺機能低下症では高値を示します。
	freeT3	
	freeT4	甲状腺ホルモンで甲状腺機能亢進症では高値を示し、甲状腺機能低下症では低値となります。
	サイロイドテスト、マイクログロブリンテスト	
CRP		慢性炎症、細菌感染、ウイルス感染、血管内皮の障害があると値が高くなります。
リウマチ反応RA, MMP3		リウマチ、関節炎で陽性となります。
CPK		心筋梗塞の早期診断につかいます。脳・骨格筋・心筋に多く存在し脳疾患・骨格筋疾患・心疾患の時上昇します。
トロポニンTテスト		心筋梗塞の有無を迅速に調べる検査です。
電解質		Na (ナトリウム)・K (カリウム)・Cl (クロール)・Ca (カルシウム)・P (リン) など Na・K・Clは腎臓病・副腎の病気・嘔吐・下痢・利尿剤・消耗性疾患などで異常になりやすく、Ca・PはビタミンDの異常や骨の病気、腎臓病、悪性腫瘍などで変化します。
腎 臓	尿素窒素	血清尿素窒素は体内の中で蛋白質が利用された後の老廃物で腎臓から尿中に排泄されます。
	クレアチニン	血清クレアチニンは筋肉の中でクレアチニンが利用された後の老廃物で腎臓から尿中に排泄されます。 腎機能をさらに詳しく見る検査です。1日に尿中に排泄されたクレアチニン量と血清クレアチニンを比較します。 正常値(男性:85~150%/day ・女性:80~110%/day)
	クレアチニン・クリアランス	
IgE (免疫グロブリン)		IgEは花粉症、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹などの病気に関連を持つ抗体です。 IgE総量が高い病気:気管支喘息などのアレルギー疾患、寄生虫感染など RST法 : 血液中の総IgE濃度を測定します。 RAST法 : アレルギーの原因物質(ダニ、牛乳、卵)ごとに血液からIgE抗体ができていないか調べます。
そのほかの迅速検査		インフルエンザ迅速検査 溶連菌迅速検査 アデノウイルス検査